

コラム 口永良部島の噴火に伴う土石流調査における土木研究所の技術支援

平成 27 年 5 月 29 日に、鹿児島県口永良部島の新岳で爆発的噴火が発生し、火砕流が新岳の南西側から北西側(向江浜地区)にかけて流下しました。この噴火で、気象庁による噴火警戒レベルが運用開始後、初めてレベル5に引き上げられました。

火山灰が堆積した溪流では、火山灰の影響による浸透能の低下などにより土石流が発生しやすくなることがあり、火砕流による火山灰の堆積が確認された範囲内にある土石流危険溪流(向江浜川)の下流には公共施設等(町道、コンクリートプラント)があるため、降雨による土石流が発生し被害が生じるおそれがありました。

土木研究所では国からの要請を受け、火山・土石流チームの職員を土砂災害の専門家として、国土技術政策総合研究所の職員とともに現地に派遣しました。

現地では、6月3日の夕方に時間雨量38mm、連続雨量72mmのまとまった降雨があり、ヘリコプターからの調査において小規模な土石流の発生が認められました。また、流域の調査では、土石流の発生の危険性や山腹のガリー侵食の発生状況などを確認し、今後の監視事項について助言を行いました。

本助言を踏まえ、九州地方整備局では流域の土砂移動状況などの現地調査を実施しました。このように現地に赴き技術支援することで、国の円滑な初動調査の実施に貢献しました。

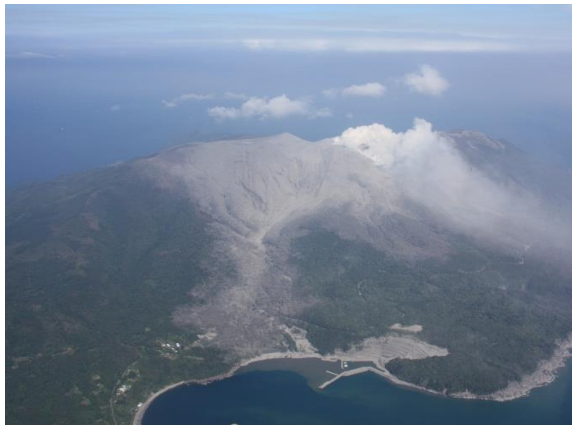


写真-1 火砕流が発生した口永良部島



写真-2 噴火直後(H27.5.29)の火山灰の堆積状況



写真-3 向江浜川の土石流発生状況



写真-4 地方整備局への調査結果の報告